



Lead【ニュース】

これまでの7年間、そしてこれからの“育ちあいのひろば”

千葉明德短期大学教授・育ちあいのひろば たいむ統括 石井章仁

突然ですが、この3月をもちまして、「育ちあいのひろば」を閉じさせていただきますことになりました。ご利用、ご支援、誠にありがとうございました。

現体制・現事業内容は3月中旬で終了し、4月からは、新名称・新担当者・新スタッフ・新事業内容で、短大内に新たな活動として再開したいと考えております。引き続きのご利用・ご支援を何卒お願いいたします。

「育ちあいのひろば たいむ」の前身は、「ほっとステーション親子」であり、こうした活動は、教員の担当者と実務を行うスタッフとの協働で運営されてきたことは、先月号で述べさせていただきました。これまで、私石井が「育ちあいのひろば」をほっとステーションから引き継ぐ形で、7年間、のべ7名のスタッフと共に運営を行ってきました。

しかし、この度、担当教員の石井の退職及びスタッフ村上が退職をすることとなり、これまでの形の“育ちあいのひろば”を本年度3月で閉じることとなりました。後任の統括は、本学講師・池谷潤子に引き継いでまいります。スタッフは未だ決まっておりませんが、4月に運営ができるように現在取り計らっているところでございます。

今後の方向性については、2月28日にたいむを育てる会（運営会議）にて原案を提案させていただき、3月のおたよりで報告させていただきます。また、3月上旬に全利用者向けの説明会を開催したいと考えております。

まんぶくカフェにつきましては、2月15日、3月8日の残り2回をもちまして休止することにいたします。大変申し訳ありません。

私は、都内の専門学校の教員だった時、小さな専門学校の自身の子育て支援の取り組みを千葉明德短期大学の「ほっとステーション親子」とともに、保育学会の自主シンポジウムで発表する機会をいただ

きました。その時は、まさか自分自身がその担当者として7年間も活動ができるとは思っていませんでした。こうしたチャンスをいただけたこと、その内容もかなり自由にさせていただけたこと、そして、たくさんの地域の子どもと保護者と出会えたこと、学生がたくさん来るようになったこと、スタッフがここを起点に羽ばたいてくれたこと、一生忘れることはないでしょう。私にとっても、自分を成長させてくれた広場であり、たくさんの出会いであったと思います。

この学校には、こうしたひろば・活動は必要です。そして、これからも、様々な人がここにかかわり、大人も子どももここで育っていくことには変わりはありません。こうしたひろばは、学校が地域貢献のため、その場所を提供していますが、その内容は、そこに集う人、子ども、スタッフ、学生の状況によっても変わります。また、永続するものではなく、必要性を掘り起こし（顕在的・潜在的ニーズ）、それぞれが持つ問題が解決・緩和されるようにしていくことが必要になります。かつて、パールマンは、こうした福祉的な個別援助に必要な要素を「4つのP」で表しました（場所（place）、人（person）、過程（process）、問題（problem））。

たいむという場所があり、そこに集う人があり、それぞれが抱える問題があり、それを解決したり予防したりする過程が誰にもある。ここに来ることによって、子育てが少し楽（苦しくないことと楽しいこと）になったり、新しい発見や体験があったり、支える仲間ができたり、触れ合うことがなかったであろう様々な人と出会えたり、そうする中で子どもが育っていくことを大切にしてきました。「1人の子どもを育てるには100人の村人が必要」と、ネイティブアメリカンの口伝で言われてきたように、我々は本来、孤立して子育てをするのではなく、様々な人とかかわりを持ちながら、子育てをしていく必要があることが可能になればとも思ってきました。

完璧な子育てをする人はいません。完璧に育つ子どももいませんし、完璧な親はいません。親は子育てだけをする存在ではありませんが、子どもを育てる責任も同居します。誰もが初めて親になるので、初めから上手く「親」になることはできません。

スタッフは、これまで、全て卒業生の有資格者で構成してきました。卒業生が結婚や出産その他、様々な理由で退職し、再出発を図る場となりました。通常のひろばは、「子育て経験などのある保育経験者が長年勤める」場合が多いのですが、たいむではその常識を捨ててきました。それが良かったかどうかは分かりませんが、彼らの中で、確実に育てられたものがありました。村上さんについては、言うまでもないですが、大変な環境の中で、2年間私のほうが助けられることが多く、きっと新天地でも活躍してくださるだろうと思います。

学生は、実習では味わえないような保護者の方とのふれあい、小さな子どもとの出会いなど、多くの経験を「さりげなく」させていただきました。ゼミや授業で参加する学生もいれば、自主的に参加する学生もいました。休みなのにわざわざたいむで遊ぶためだけに来る学生もいました。ほかの養成校では味わえないような経験をし、就業や自身の子育てに生かしていくのではないのでしょうか。

経験上、利用者主体のひろばや活動を創りたいと願ってきました。そのため、お母さん企画はとてに関心がありました。スタッフがいなくとも、自身で活動を創り、仲間を集め、そしてつないでいく。そんな集団ができれば、本当は「子育て支援」なんていらなくなるのです。

最後に私。一番成長させられたのは、統括である私であるだろうと思います。他では体験できないこと、年々進化する事業、この7年間は忘れることができません。また、たまに「まんぷく」をやりにもどってこようかな。

## ◇もちつき◇ 1月22日(火) 11:00～16:00



毎年餅つきは、子どもから大人まで楽しみにしている恒例行事の一つになっています。今年は日程の調整がつかず、平日の一日のみとなってしまい小学生のご家庭にはとても残念な結果となってしまいました。

当日は、日差しがとても暖かく中庭で過ごすのも気持ち良い程で親子39名の参加となりました。前日からもち米をボールに入れ、沢山の水を吸わせる準備から始まりました。水を沢山含んだもち米を蒸し、蒸し上がったらいれで杵でお米の粒をすり潰す作業から始まります。重さのある杵ですり潰す作業は、思った以上に大変で後半になると3人で回りながら息を合わせる場面も見られ周りのみんなは、微笑ましく見っていました。臼の温度や餅の温度が下がると、玉になりやすく滑らかな

餅にするのが意外に大変で何度経験しても毎回同じ硬さにはならない不思議さと面白さがそこにはあります。お湯で臼を温めてからやったらどうか。一度につく餅の量を増やせないかなどその場で色々な知恵を絞って挑戦していきました。

14時までは未就園児中心だった為、ある程度餅になってから子ども用の杵で、“べったんこ”とついでもらう事にしました。初めてみる光景に、驚きと不安からお母さんのそばを離れない子どもたちも多くなりましたが、お母さん自身が自ら楽しんでやってみると、その様子をじっと観察し、少しずつ臼への距離が近くなっていきました。周りの大人や学生がその場で声を掛けたりすると、子どもも躊躇しがちですがそっと見守ることで最後は、お母さんと一緒に餅つきに参加する事が出来ました。

つきたての餅は、中学生のお姉さんたちに一口サイズに丸めてもらい食べる事にしました。今年は、お母さんから教えてもらったチーズと石井先生おすすめのバターも用意し、自宅からはちみつを持参するなどそれぞれが色々な味を楽しんでいました。

午後は、幼稚園児も参加して、すり潰しから餅つきまでの工程を経験し、みんなで中庭で遊びながらの餅つきとなりました。

子どもたちは、自らの経験と子ども同士や周りの大人の様子などをじっくり観察し個々に成長していきます。いつも、親は子供に何が出来るんだろうと思い日々子育てをしています。集団に入るに連れて遊びの中から自分で学び、体験しながら時に失敗し、そこから色々な事を習得していきます。外の世界にいくと、楽しい事も沢山ありますが、それと同じくらい自分の思うようにいかなかったり

悔しい思いをしたり様々な経験もしていきます。そんな時、お家の人だけは絶対に味方でいてくれる、話をただじっと聞いてくれる、ぎゅっと抱きしめて寄り添ってくれるそんな安全基地でありたいと思います。母親も一人の人間。調子の良い時もあれば、疲れている時もある。でも、そんな部分を子どもには隠さず見せることも必要なのではないのでしょうか。餅つきなどの伝統行事も、風邪の季節だからと縮小傾向の所もあるようですが、みんなが集う場所だからこそコミュニケーションの一つとして参加している大人自身が心から楽しんで参加することに大きな意義があると感じます。



(村上)

## ◇正月を祝おう◇ 1月8日(火)11:00～



無病息災を願い休み明けに『七草粥』を頂きました。餅ありと餅なしの二つを用意しましたが、柔らかくなった餅入りの七草粥は、初めて食べましたと大好評でした。たいむの七草粥は炊飯器のおかゆモードで炊くためとてもお手軽です。お好みで塩や振りかけで味付けをし、それぞれの味に仕上げていました。

幼稚園児にも大好評で、おかわりを何度もしたり量を自分で調節したりと余ってしまうかなと心配しましたが、残さずすべて食べてくれました。

正月にちなんだ福笑い、かるた、けん玉、コマでも糸を巻いて投げるコマや折り紙で作った吹いて回すコマなど様々でした。以前までは、お母さんたちが遊びに参加する姿も多かったように感じますがそれぞれ子どもたちが育ってきていて子ども同士でかるたの読み札を読んだり、ルールを決めて楽しむ姿も見られました。



かるた



吹きコマに挑戦



福笑い

## ◇中学生職場体験◇ 1月22日(火)～24日(木)



今年もおゆみ野南中学校の2年生4名が職場体験に来ました。子どもに興味があったようで沢山関わっていきたくて意気込みを聞くことが出来ました。体験初日は、まさかの餅つき。朝からとても緊張した表情で四人でいると安心している様子でしたが、子ども達の方からお姉さん達に声を掛けたり、近づいていったりしてくれたこともあり徐々に緊張がほぐれ笑顔が見られるようになりました。いつもとは全く違う環境で不安が大きい中、個々に考えて子どもと積極的に関わったり、名前を覚えて読んだり子どもの目線に立って接する姿が沢山見られました。

3日目には、子どもの中に自然に入りごっこ遊びに参加したり、カードゲームのルールをこども達に教えてもらったり、本当に積極的に参加してくれました。

そんな姿を見せてもらう中でスタッフも慣れることなく子ども達と真剣に関わる大切さを改めて学ばせてもらう事が出来、気づかされた部分が沢山ありました。最後に「終わっちゃったーでも、楽しかった。」のふともらした一言が印象的でした。

沢山の可能性を持っている中学生。将来、数多くの職業の中で、この職場体験がきっかけに子どもと関わる仕事についてくれるきっかけになれば大変嬉しく思います。



◇ たいむを育てる会(運営委員会) 議事録 ◇

今月は、お休みでした。

来月は、2年生 ありがとうの会の流れ、内容確認  
来年度についての話 を予定しています

次回は2月5日(火) 10:30～

info【情報・お誘い】

◆節分の豆まきをしよう◆

邪気をはらい、歳の数トシノカズの豆を食べて1年の無事をみんなで祈りましょう。あの鬼はきっと来る…

【日時】2月1日(金) 11:30～(1回目)  
14:30～(2回目)

【場所】たいむ



◆2年生 ありがとうの会◆

2年生もう卒業！！たいむの子どもたちと沢山遊んでくれた学生に感謝の気持ちを込めてお母さん方が企画してくれました。お母さんだけの参加もちろんOKです。昼休み1時間程度を利用してカレーをいただきます。たいむ受付・facebookにて予約を開始しています。

【日時】2月8日(金) 12:30～13:15  
【場所】短大サロン たいむにて受付をして移動  
【参加費】大人300円 子ども100円

◆フワフワホットケーキを食べよう◆

ホットケーキミックスに豆乳とチーズと餅を入れて焼くと…  
フワフワのホットケーキの出来上がり！！みんなでホットプレートで焼いて食べてみませんか？

【日時】2月20日(水)・22日(金) 2日間を設けます  
13:30～15:00頃

【場所】たいむ【持ち物】飲み物

【参加費】大人200円 子ども100円

★おおよその人数把握の為、事前予約して頂けると助かります。  
後日、facebook、たいむ受付名簿、直通電話にて受け付けます

◆ひな制作をしよう◆

たいむで子どもの靴下を利用したオリジナルのおひな様を作ってみませんか。詳細は後日お知らせします。  
まいペース・まいすべえすの日はのぞきます。

【日時】 2月12日(火)～28日(木)  
10:30～15:00頃(昼食時はのぞく)  
【場所】たいむ